

Vol.173



かけはし

理念

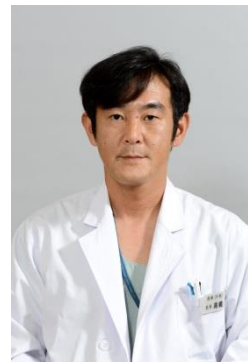
すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは
http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/

発行責任者 病院長 佐々木 順子

異常腹水に対するKM-CART ～改良型・腹水濾過濃縮再静注法～

消化器外科部長・KM-CART責任者
高橋 毅



異常腹水とは・・・

腹腔内には常に20～50mlの腹水が一定量で存在しており、本来は腸管運動の潤滑剤として機能しています。その腹水が異常な量にまで増えると、内臓が圧迫され、腹部膨満感や食欲不振、また下肢のむくみや呼吸困難などさまざまな症状を引き起こします。原因は、血管内の水分が腹腔内に溢れ出す非炎症性腹水（肝硬変、ネフローゼ症候群など）と腹腔内の炎症が原因で水分貯留を生じる炎症性腹水（胃がん、大腸がん、卵巣がんなど）に大別されます。

KM-CART（改良型・腹水濾過濃縮再静注法）による腹水治療

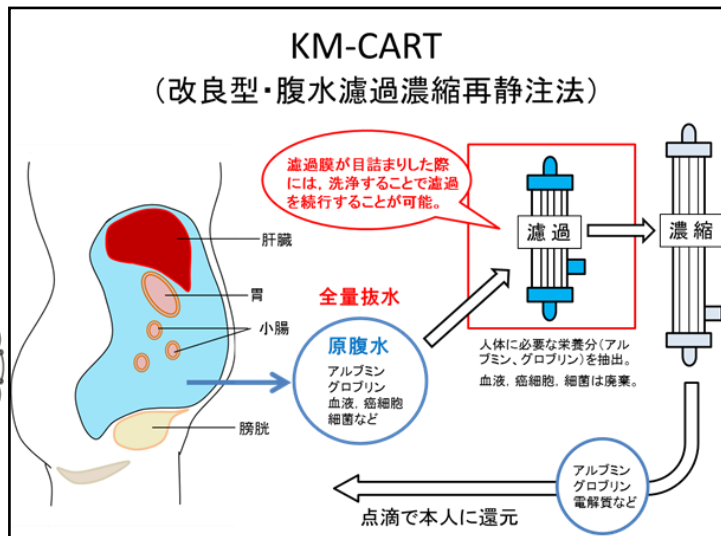
当院外科では、異常腹水を治療する方法として、2013年に**KM-CART（改良型・腹水濾過濃縮再静注法）**を導入致しました。CART（Cell-free and concentrated Ascites Reinfusion Therapy）とは、腹水を穿刺して抜水し、抜いた腹水を濾過することで必要な栄養分（アルブミンやグロブリンなどのタンパク）を抽出し、濃縮したのち点滴で患者様に戻す治療法です。

この方法を用いると、腹水を抜くことで栄養分が失われ、体力が低下する事態を極力回避することができます。ただ、従来のCARTを癌性腹水に用いると、腹水中の癌細胞によって濾過膜の目詰まりが生じるため、濾過・濃縮処理のできる腹水量が限られていることや還元時に高熱を認めることが問題とされてきました。一方、私たちが行っているKM-CARTは、濾過膜の洗浄機能が設けられており、濾過膜に目詰まりした癌細胞を洗い流すことが可能です。それにより血液や癌細胞を取り除きつつ、多量の癌性腹水を濾過・濃縮できるようになりました。KMはこのシステムの開発者である松崎圭祐先生（現要町病院・腹水治療センター長）のイニシャルです。

異常腹水に対する治療として、KM-CARTを受けられる医療機関は関西のみならず日本全国でも未だ少なく、薬物療法のみが従来のCARTによる治療が行われているのが現状です。当科では、異常腹水でお困りの患者様が少しでも穏やかに過ごせるよう、症状緩和に尽力しております。

問い合わせ先： 地域医療連携室
電話番号 078-652-8271
FAX 078-652-8275

KM-CART （改良型・腹水濾過濃縮再静注法）



＜年末年始閉院日についてのお知らせ＞

12月30日(土)～1月4日(木)まで閉院となります。
なお、12月29日(金)は全日開院日となります。